

5/3,AB/4 (Item 4 from file: 347)
DIALOG(R)File 347:JAPIO
(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

02837208
WIRE HARNESS

PUB. NO.: 01-134808 [JP 1134808 A]
PUBLISHED: May 26, 1989 (19890526)
INVENTOR(s): KUROSU KOICHI
KASUGA YOSHIO
APPLICANT(s): NEC CORP [000423] (A Japanese Company or Corporation), JP
(Japan)
APPL. NO.: 62-292960 [JP 87292960]
FILED: November 18, 1987 (19871118)
JOURNAL: Section: E, Section No. 811, Vol. 13, No. 383, Pg. 146,
August 24, 1989 (19890824)

ABSTRACT

PURPOSE: To improve simplicity and steadiness in wiring and wiring checking, etc., after the wiring by attaching plural colored sleeves to each of plural signal lines for identification.

CONSTITUTION: For example, six sleeves are attached to each of plural signal lines 2 to be connected to a multi-electrode connector 1 and each given the specified color. Six sleeves are made to specify the wiring character of each signal line. For example, the first two are specified for the pin number and the next two are specified for the connector number and the last two are specified for the root number. The color of each sleeve is so specified that the numbers 0, 1, 2 may correspond to 10 colors such as black, brown, orange, etc. By this colored sleeve, the wiring characteristic of each signal line is coded, which becomes convenient for wiring and checking after the wiring.

⑫ 公開特許公報(A) 平1-134808

⑬ Int. Cl.

H 01 B 7/00
7/36

識別記号

3 0 1

庁内整理番号

8832-5E
Z-7364-5E

⑭ 公開 平成1年(1989)5月26日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 ワイヤーハーネス

⑯ 特 願 昭62-292960

⑰ 出 願 昭62(1987)11月18日

⑱ 発 明 者 黒 須 孝 一 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 発 明 者 春 日 義 男 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑳ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
㉑ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

発明の名称

ワイヤーハーネス

特許請求の範囲

複数個の多極コネクタとこの複数個の多極コネクタに接続された複数本の信号線とを備えたワイヤーハーネスにおいて、前記信号線のそれぞれに複数個の色付スリーブを有することを特徴とするワイヤーハーネス。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はワイヤーハーネスに関する。

〔従来の技術〕

従来のワイヤーハーネスは、信号線的一端を多極コネクタのピンに接続する場合、その信号線の他端が接続されている他の多極コネクタのピンとの導通をテスト等により確認しながら接続する必

要があった。

〔発明が解決しようとする問題点〕

上述した従来のワイヤーハーネスは、組立配線時に一本の信号線に対して多極コネクタのピン数だけ接続チェックする必要があるので、多極コネクタのピン数が多くなるほど信号線の識別に時間がかかるという欠点がある。一般に、ワイヤーハーネスは1個の多極コネクタから複数個の多極コネクタへ信号線が別れるため、複数の信号線を識別する事は更に困難となる。

その上、従来のワイヤーハーネスは一度組立配線工事が完了するとその信号線の識別をすることは非常に困難となるという欠点がある。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明のワイヤーハーネスは、複数個の多極コネクタとこの複数個の多極コネクタに接続された複数本の信号線とを備えたワイヤーハーネスにおいて、前記信号線のそれぞれに複数個の色付スリーブを有している。

〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例を示す結線図、第2図は第1図に示す実施例におけるある一つの多極コネクタの結線図である。

第1図に示す実施例は、コネクタ1と、それに接続される信号線2と、各信号線2に装着されるカラー・スリーブ3～8とを備え、複数のユニット10を相互接続している。

カラー・スリーブ3と4とは、多極コネクタ1のピン番号を示し、それぞれ10の位、1の位を表わす。カラー・スリーブ5と6とは多極コネクタ1のコネクタ番号を示し、それぞれ10の位、1の位を表わす。カラー・スリーブ7と8とは信号線2のはい廻しのルートR01～R09のルート番号を示し、それぞれ10の位、1の位を表わす。カラー・スリーブの色とその色が表わす番号とは、それぞれ黒、茶、赤、橙、黄、緑、青、紫、灰、白に對し番号の各桁の数字“0”、“1”、“2”、“3”、“4”、“5”、“6”、“7”、“8”、“9”が対応するものとする。

以上説明したように本発明は、各信号線毎にそれぞれ接続されているピン番号、多極コネクタ番号、ならびにはい廻しルート等がカラー・スリーブの色により識別されているので、ワイヤーハーネスの組立配線時及び組立配線工事後の信号線の識別が容易になり組立配線工事や工事後の配線チェック等の作業が大幅に短縮できるという効果がある。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す結線図、第2図は第1図に示す実施例におけるある一つの多極コネクタ1の結線図である。

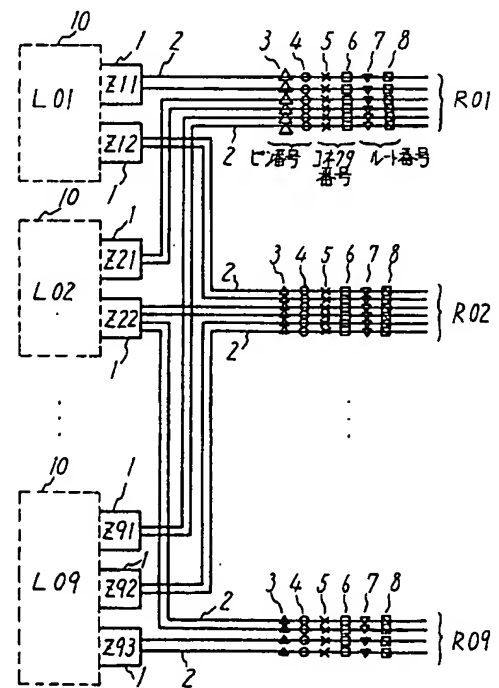
1…多極コネクタ、2…信号線、3～8…カラー・スリーブ。

代理人 弁理士 内 原 晋

このように対応させておけば、各信号線2が接続される多極コネクタ1のピン番号、コネクタ番号、ならびに各信号線2のはい廻しのルートR01～R09のルート番号が全てカラー・スリーブにより識別できる。例えば、ある信号線2のカラー・スリーブ3、4、5、6、7、8、の色がそれぞれ黒、灰、茶、茶、黒、茶とすると、それらは数字の“0”、“8”、“1”、“1”、“0”、“1”に対応するからこの信号線2は08番のピン、11番の多極コネクタに接続され、01番のルートR01ではい廻されるものである事が一見して判断できる。

尚、本発明はそれぞれの信号線に装着されるカラー・スリーブの数を増やす事により、上記の実施例における以外の種々の情報をそれぞれの信号線に付加できる事は言うまでもなく、種々の応用ができるという大きな利点も合わせ持つものである。

〔発明の効果〕



1: 多極コネクタ

2: 信号線

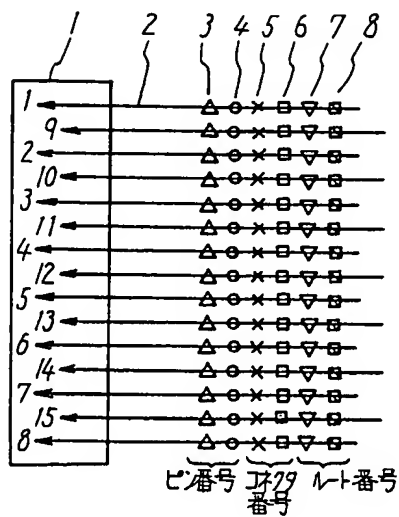
3～8: カラー・スリーブ

10: ユニット

R01～R09: ルート

第1図

BEST AVAILABLE COPY



第 2 図